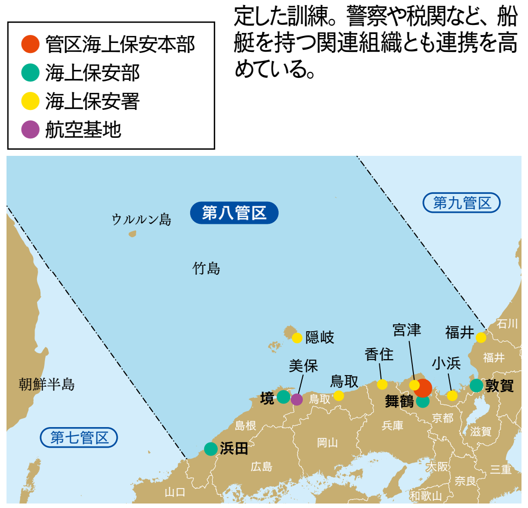
# 海上保安庁のあるまち

▲海からのテロリストの進入を想定した訓練。警察や税関など、船艇を持つ関連組織とも連携を高めている。

▲昨年7月には、ヘリ2機が搭載できる管区内最大となる大型巡視船「ふそう」が追加配備され監視力を強化。




▲日本海の広範囲で海の安全安心を守る。

舞鶴には、海に関わる国の実動機関が2つあります。昨年9月号では海上自衛隊を紹介しました。今回は、海上保安庁の仕事を紹介します。

事件や事故、災害から人々を守り、安全安心な暮らしを支える仕事と聞くと、警察や消防・救急を思い浮かべるかもしれません。しかし、それは「陸上」での話。海上でこれらの役目を担い、日々安全安心な海を守っているのが「海上保安庁」です。

舞鶴には、北陸から山陰地方に面する広い海域を守る第八管区海上保安本部と、その中でも京都〜兵庫の日本海側沿岸を守る舞鶴海上保安部が置かれています。海上保安庁は「海における警察と消防の役割を担う組織」と考えるとイメージしやすいかもしれません。他にも、船舶の航行用に特化した地図「海図」の作成や海洋環境の保全、他国の沿岸警備隊などとの連携・協力など職務は多岐にわたります。

## 海上保安庁の歴史

戦前、海上の治安維持は海軍が行っていました。戦後、海軍が解体されると、戦後の混乱のなか密航者や海賊が出現するなど、海上の治安が悪化していきました。そこで、海運を担う運輸省の外局として1948(昭和23)年、海上保安庁を設置。中心メンバーを担ったのは大型船での外洋航海のために船舶、航海のスペシャリストを養成してきた商船学校出身者でした。密航や海賊の取り締まりはもちろん、日米両軍が戦時中に設置した機雷の掃海といった戦争の後始末も大切な任務でした(のちに掃海は自衛隊に引き継がれる)。

以来、不審船などに対する警備や海難救助、海上火災・重油流出への対処、密漁、密輸の取り締まりなど海の安全を守り続けています。また、大規模な事故・事件などでは海上自衛隊と共同で作戦行動に当たることもあります。昨年6月には共同訓練を実施するなど、海の平和や安全のために協力体制を強めています。

## 海上保安官と警察官

海上保安庁は国土交通省の外局で、都道府県の地方公務員である警察とは異なる組織ですが、海上保安官は「特別司法警察職員」にあたり、警察官ではありませんが、捜査や逮捕、押収、送検などを行う権限を持っています。

## 海の治安を守る海上保安官

ニュースで報道される大きな事件ばかりが目立ちますが、海の安全を守るのは地道な日常業務です。海は、海運のための交通路や水産資源、海底資源の宝庫であり、マリンレジャーを楽しむ憩いの場でもあります。島国日本にとって、外国との境界線となるのも海上です。海上保安庁では、この重要な海の治安を守るために主な仕事を「5つの使命」として掲げています。

◇**海洋秩序の維持**…海外からの密輸や密航を監視、取り締まる

◇**海難の救助**…海難事故の救助や事故予防のための啓発活動

◇**海上防災・海洋環境の保全**…海上災害への迅速な対応や海洋、海岸などの汚染の防止、除去

◇**海上交通の安全確保**…海難事故を防ぐための海洋調査や情報提供

◇**国内外機関との連携**…諸外国の沿岸警備隊や海上自衛隊などとの共同演習など

日常の多くを海上で過ごす海運業者や船員、漁業者にとっては警察官よりも身近な存在かもしれません。

## 第八管区と舞鶴

海上保安庁は、日本を11の管区に分けて管理しています。第八管区は、島根から福井までの範囲を管轄しており、管区の海上保安本部が西舞鶴にあります。また、管区をさらに細分化した舞鶴海上保安部(京都〜兵庫沿岸)もあります。

この管区には竹島もあり、領土問題が本格化した昭和20年代後半にはたびたび銃撃や砲撃を受けたこともあり、海の治安維持の最前線ともいえる地域でした。現在でも、二管、七管、九管と共に大陸に面した日本海側であるため、木造船の漂流や不審船なども多く、海の安全を担うための重要な管区です。

また、舞鶴には海上保安学校もあり、海上保安官を目指す若者たちが舞鶴で1・2年の間過ごします。

海の治安維持はもちろんのこと、管区の中心地として例年、ブルーフェスタ(JCGフェスタ)を開催。巡視船の体験航海や訓練展示、マリンレジャーの注意啓発など、市民や地域との架け橋となる交流・啓発にも取り組んでいます。





| | 海上保安庁 | | 警察 |
|---|---|---|---|
| 悪事を取り締まる | 密輸、密航、密漁などの取り締まり | ≒ | 窃盗など、犯罪者を逮捕する |
| 安全を守る | 灯台・浮標の管理、海上交通違反の取り締まり(進路妨害など) | ≒ | 信号・交通整理、交通違反の取り締まり |
| 事故などの対応 | 海難救助、漂着物の処理 | ≒ | 遭難者捜索、不審物の処理 |
| 他にも… | 海上消火(陸上なら消防・救急 ※消防組織も消防艇を所有しているか)海図の作成(普通の地図なら国土地理院)のように、陸上では他機関が実施することを海のスペシャリストとして担っている。 | | |

## 海上保安庁の変遷

海上の治安維持は旧日本海軍が行っていた

↓

戦後、海軍が解体されると海賊や密航が多発！密入国者などからコレラも蔓延

↓

「安全な海運や沿岸警備のため」海上保安庁設置(運輸省＝現国交省)

↓

海上の安全確保や法令順守、犯罪の取り締まりなど、海にまつわる治安や安全を担う組織として今に至る

▶ブルーフェスタでは海上救難の様子を実演

## 5つのコースで学ぶ 海上保安学校

海上保安官になるには、海上保安学校か海上保安大学校を卒業する必要があり、舞鶴には海上保安学校があります。4月と10月に入学式があり、船舶運航や航空など5つの課程に分かれ、基礎教養や法律などの共通科目のほか、航海や調理、気象など部門ごとに専門分野も学びます。期間はコースによって1年か2年。卒業後、海上保安官として全国に配属されます。また、授業だけでなく制圧術や漕艇、水泳などの部活もあり、現場でも生きる体力や技能を磨きます。

▲卒業式には安倍内閣総理大臣も出席(平成28年)

このほか、7月には学校祭「五森祭(いつもりさい)」を開催。音楽隊の演奏や訓練の実演などを見ることができます。

▶詳しくは、海上保安学校(☎62・3520)へ。